

令和5年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A231001 建築概論	<p>達成目標 建築で学ぶ科目のつながりを理解できるようになる。 建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できるようになる。 本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できるようになる。</p> <p>教育効果 多岐に渡る建築のさまざまな分野についてその内容や、それらの分野が互いにあるような関わりをもつのか、この科目を通して建築学の基礎を理解してもらいます。</p> <p>建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。</p>	<p>資料内容について、復習時に自己学習がしやすいように作り直しました。 建築学全体の科目間のつながりや、その中で学ぶ内容について、理解しやすくなったと思います。 建築学では何を学んでいくのか、また、建築家とその建築家が設計した建築を、学べるようにしました。 授業を通して、学生たちの学ぼうとする姿勢が真剣によく伝わってきました。</p>	<p>授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。 また建築界で活躍している建築家の作品紹介の回では、建築家の意図や作品の特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見た目でもわかりやすいように工夫しました。 今後は、質問や、興味のある内容について、学生からのコメントが出せるように課題プリントに記載できる欄を設けました。</p>	<p>授業評価4.55 回答率95.5% 科目GPA3.84</p>
A231002 住宅のつくり	<p>住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。 建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。また、建築に携わる者として自身の考えを他者に伝えるために、建築の工法や構造などの専門用語を身に付けることも目的の一つです。本講義では、これらの理解と修得をもとに住宅建築で用いられる建築構法の在り方について考える基礎を養います。</p>	<p>構法について興味をもってもらえるように、基礎については測量の専門の先生にお越しいただき教室内で測量の実施をいただいた。また、構法についてはわかりやすい図面を使うようにして丁寧な説明を行った。いつものことだが工学系から入学した学生には物足りないようで、授業後の質問時間などを使って個別の対応を行った。</p>	<p>構法についての細かな図面の説明を行うことで教科書の内容の振り返りを行えるようにしたい。また課題で出している構法の作図について優秀な学生の作品を発表するなど課題の振り返りを時間をかけて行いたいと思う。</p>	<p>授業評価4.4 回答率91.2% 科目GPA2.59</p>
A231003 基礎製図Ⅰ	<p>目標 木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。</p> <p>教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。</p>	<p>毎回、課題のはじめにパワーポイントを用い、製図道具の使い方や、建築図面の作図手順など具体的に解説を行い、その後、二つの製図室に分かれて作図を行った。課題説明に講義室を使用することで集中力が増し、課題への理解度が向上したように感じている。</p>	<p>授業評価は高いが、課題が図面のトレースであるため、線の意味や、記号の意味など理解して描いているのか、知識や技術が定着しているのか、注意深く見ていく必要がある。</p>	<p>授業評価4.58 回答率95.5% 科目GPA2.69</p>
A231003 基礎製図Ⅰ	<p>木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します</p>	<p>建築系工業高校の出身学生（図面が描け、模型も作れる）を対象にした自由設計課題を作成して設計してもらった。岡崎市内の実際の住宅地の敷地を設定し、一戸建てを設計するという課題だが、全員が手書き図面・模型ともにしっかり達成できた。</p>	<p>学校から歩いてはいけない距離の敷地だったので、googleのストリートビューや航空写真を見ながら敷地調査を行ってもらった。全員が高校で設計をして来ただけあり、なかなか良いクオリティになったと感じる。コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。</p>	<p>授業評価4.58 回答率95.5% 科目GPA2.69</p>
A231004 建築の歴史	<p>達成目標 1. 建築の歴史的な流れを理解できる。 2. 建築様式の違いを理解できる。 3. 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。</p> <p>教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。</p>	<p>資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。 学生も授業を通じて建築での歴史とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。</p>	<p>授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。 今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。</p>	<p>授業評価4.60 回答率95.6% 科目GPA3.75</p>
A231006 建築計画Ⅱ	<p>商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。</p>	<p>さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使った教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすようにした。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.5(4.5, 4.4, 4.4, 4.5, 4.5) 回収率70.8% カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。 授業内では毎回、ファンズワース邸、サヴォア邸、落水荘、サグラダファミリア、シーグラムビル、フィッシャー邸など世界の名建築を取り上げ、その建築の設計意図をいくつかクイズ形式で質問し、全学生に回答を書かせ、授業内で答えを解説していくという内容にしてみた。学生にとっては教科書を読むよりも頭を使うので面白いようだ。 教員にとっても非常に勉強になるので、名建築の質疑回答のパターンを増やしていきたい。</p>	<p>授業評価4.5 回答率70.8% 科目GPA4.475</p>

A231007 環境デザイン I	快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。熱の伝わりについての基礎的な事柄を理解できる。光環境の基礎的な事柄を理解できる。快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。	建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など、パワーポイントや部分的に動画を用いるなどわかりやすい説明を心がけた。照度計を用いた、照度計測の体験なども行った。計算問題などは、回答時間を確保するとともに、丁寧な解説を行った。	省エネに関する知識、計算は、実務でも求められることから、多くの学生の理解が得られるよう対応したい。作業など手を動かして取り組める内容を工夫してゆきたい。	授業評価4.32 回答率66.7% 科目GPA1.71
A231008 建築設計演習 I	目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。	池のほりに祖母と夫婦、子供が暮らす二世帯住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。自然環境と住まい、人と人との関係性について考えることができた。	エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高め、環境づくりをしていきたい。	授業評価4.42 回答率68.0% 科目GPA2.27
A231008 建築設計演習 I	建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。	案を決めるにあたって、通常は最も自身が気に入った1案を煮詰めていくのが一般的な方法だが、実際の実務設計では自分の気に入った案が施主に受け入れられることばかりではなく、自身の考え方を変えなければならない場面もたくさんある。そのため、本授業では[簡単な配置平面スケッチ+断面スケッチ]を3案考えさせ、その中のどれをなぜ選択して進めるのか、を各学生と打合せしながら設計を進めていった。1つの課題に対して、なるべくようなアイデアが思いついた方が素晴らしいので、学生にとって良い訓練になったのではないかと考えている。	手描きで図面を仕上げる規定だったので、CAD・Photoshop・イラレ・3DなどのPC作業はできなかったのだが、コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。また、模型表現をもっと細かく指導できるように、共通事項を決められないかが今後の課題だと思っている。	授業評価4.42 回答率68.0% 科目GPA2.27
A231009 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は37名、履修生は積極的に取り組んでくれた。当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考える。毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2022年度の2.83と比較し低かった。授業評価に関しては、昨年度の4.391より高く、回収率から十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価4.55 回答率67.6% 科目GPA2.03
A231010 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は38名、履修生は積極的に取り組んでくれた。当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考える。毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2022年度の2.83と比較し低かった。授業評価に関しては回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えられる。もう1つのクラスと比較すると授業評価が低いが、科目GPAが0.1低いことが要因と考えられる。CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとったが、昨年度より授業評価が下がった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価4.29 回答率58.8% 科目GPA1.92
A231011 建築材料	建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性の理解することが必要となります。□ 1. 建築物の材料に要求される事柄を整理する 2. 建築材料の評価法について理解する 3. 建築材料の使い方について理解する	各建築材料の使われた建築物の紹介物件を多くし、興味を持てる内容に変更した。また学生が材料に興味を持てるように各材料をどのように使うかの提案をしてもらおうような課題を多くした。そのことで課題の内容が学生が考えられるレポートに変化したことが良かったと感じた。	来年度も学生が材料の使い方に興味を持ち、提案をすることができる授業内容にしていきたい。	授業評価4.43 回答率63.9% 科目GPA2.73
A231013 建築構造力学	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。多様な構造物(建築物)の力の流れを理解できる。	対面式の講義を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を毎回行った。UNIPAによる授業資料配信により解説を行い、演習時間を十分に確保することができたが、一人ひとりの学生に対するフォローの面で改善の余地がある。	学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。	授業評価4.6 回答率68.3% 科目GPA2.21

A231014 卒業研究 I	・生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。	自ら考え、発表をし、仲間にも意見ができる環境を作ることができ、充実した授業となった。ただ、前向きに取り組めない学生にとっては居心地が悪く感じている様子があった。卒業研究は11人全員で取り組みたいが後期は進捗状況に合わせ2グループに分けることも検討したい。	学生の状況を考えつつ、全員が進めることがいいのかを考えながら進めたいと思う。各学生が発表をしながら進める授業方法は継続していきたい。	授業評価5.00 回答率27.3% 科目GPA3.55
A231015 複合構造	鉄筋コンクリート構造などの材料的複合構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。 部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。 複数の構造システムを用いた複合構造の構造設計を理解できる。	対面式の授業を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。UNIAPを用いて授業資料の解説を実施し、学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業運営方法を工夫した結果、期待した効果が得られた。次年度は更なる工夫を継続的に実施して行く。	授業評価4.27 回答率37.0% 科目GPA1.86
A231016 建築設計演習Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面（配置図、平面図、立面図、断面図）作成できる手法と、伝えることを習得することを目標とします。	「川辺に建つメディアテーク（図書館）」。敷地は、東岡崎駅から歩いてすぐの、岡崎市が街歩き戦略で掲げる「Quruwa」戦略の経路上に位置し、乙川と国道1号に挟まれた場所。第1回目で現地調査に行った。 外で授業を行うという大変なことがあるとわかったが、その分リアルな体験として敷地周辺を感じることができるので、今後も続けられたらと考えている。	現地調査は第1回目で行くべきではないと痛感した。配布プリントを現地に持っていくか悩まざらず、それを並べるテーブルも無いので床に並べるしかなかった。第1回は大学で資料配布を行い、第2回目以降で印刷物を持参させて現地調査を行うべきだとわかった。また、1コマ目の出席でいたはずの学生が、2コマ目の出席で数名いなくなっており、もし事故などに合っていたら困ると感じたため、現地調査を授業内で行うときは、2コマ分の出席で必ず返事することを徹底させるべきだと感じた。来年はそのようにしたい。	授業評価4.11 回答率40.4% 科目GPA2.33
A231018 木造設計演習	木造建築の設計方法の基礎を理解できる。軸組みの考え方を理解することができる。部材の役割について理解することができる。 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。	木造の軸組を作成する課題に取り組んだ。モデリングスタジオにて、木組みを制作するものであり、難しい部分、手間のかかる部分もあるが、積極的に取り組む様子が見受けられた。時間外で行ってもらった作業もあったが、ほとんどの学生が完成に至ることができた。	進度に個人差があることから、フォローをしながら、丁寧な指導を心がけてゆきたい。前半でのんびりし、期末で慌ただしく作業する傾向がみられることから、バランスのよい時間配分となるよう指導をしたい。	授業評価4.80 回答率33.3% 科目GPA2.00
A231021 建築体感演習	目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構成法、スケール、装飾、使われ方、近代・現代の建築デザインなどについて、現地での観察や事前の解説を通じて、今後の建築を考えていく具体的で多様な視点を獲得することを目標とします。 教育効果 日本の伝統的な建築や、近代・現代の建築、建築家の作品について、体験型学習などを通じて、建築への理解を深めることを目的とします。	5月に日帰りで博物館 明治村へ、9月には4泊5日で東京、山梨、静岡へ行き、近代・現代的な建築や街並みなどの見学をし、学生にとって貴重な体験を得ることができた。また学生による授業評価アンケートでは、高評価科目として表彰された。見学を予定していた建築物の作品数が多かったため、移動距離が長くなり、炎天下ということもあって体力的な負担が大きくなってしまった。	見学する時期や気温も配慮し、建築物の作品数を検討する必要がある。	授業評価4.87 回答率54.5% 科目GPA2.86
A231022 エクステリアデザイン	建築（主に住宅建築）のエクステリアデザインに関する専門用語を理解することができる。 エクステリアデザインがどのようになされているか理解することができる。 外構計画のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	住宅プランニング、建築計画 I など先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらい的な内容を進めるかに試行錯誤した。また、Power Pointをつかった事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるを得ない。こうした状況への対応が、結果的に場当たりの授業進行になった面の否めず反省点となった。	講義内容からしても事例を通じた理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を持続させられるよう授業資料、課題内容を再編していきたい。こちらの手ごたえに反して、授業評価が高かったことに感謝しつつも、複雑な思いがある。満足度に学習効果が伴うように工夫をこらしていきたい。	授業評価4.10 回答率33.7% 科目GPA2.71
A231024 卒業研究 I	達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	個々の情報収集の能力や、まとめる力を判断しながら、テーマをより深めるために、どのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。	授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。 学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価5.5 回収率16.7% 科目GPA4.0
A231025 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生それぞれの興味や取り組みたい事柄をブレザーをしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査、制作などを行った。	学生個々での進度や取り組み状況に差が生じることから、それぞれの状況に応じてしっかりと取り組みができるよう配慮したい。全体に進みがのんびりとしていることから、前半での積極的な作業を行うよう指導したい。	授業評価5.0 回答率37.5% 科目GPA3.43

A231026 卒業研究 I	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。 	4名ということもあり、細かな指導ができたのではないと思うが、建築に関して知識は私自身がユーザーの立場からしか指導できないため、学生も苦労したと思う。計画どおりの調査を依頼したが、現地調査で関係者との話し合いはなかなか難しかった。学生の積極性を促す指導をしていきたい。	アイデアとしては良いものを持っている学生が多い。しかしそれを実現するための調査や文献研究などは苦手な学生が多かった。後期は設計をメインに考えているようであるため、うまく形にしていきたい。	授業評価4.0 回答率25% 科目GPA2.0
A231028 卒業研究 I	<p>目標 ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 教育効果 学生自身が研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養い、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	卒業設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。テーマの設定では、他学生の研究について発言する機会をできるだけ設け、自分の意見が言えるように促した。	自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションできる環境を整えていきたい。	授業評価4.44 回答率45.5% 科目GPA3.55
A231029 卒業研究 I	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	実験系の研究テーマにおいて少し遅れが生じた。研究指導方法を再検討する必要がある。	授業評価4.90 回答率28.6% 科目GPA2.71
A231030 卒業研究 I	授業の中にディスカッションを行うことを通じて、意見を相手に伝えられるようになることと、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目標とする。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業である。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待される。	履修者数9名。履修者は概ね積極的に取り組んでくれた。 履修者により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。	科目GPAは昨年度の1.11と比較すると多少高い。授業評価は昨年度の3.867から比較すると大幅に高くなって。これは、昨年度は回収率が42.9%だったか、今年は33.3%になったためであると思われる。研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価4.67 回答率33.3% 科目GPA1.11
A231032 卒業研究 I	<p>達成目標 ①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	前期の卒業研究Iでは、後期では卒業設計を選択したい学生にも能力向上を考えて全員に卒業論文を選択してもらった。課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。	授業評価 2.9(3.0, 2.3, 3.0, 3.3, 3.0) 回収率27.3% 4年生ということもあり、登校の日はこの授業しかない学生が多いため、欠席過多にならないように5回ギリギリまで休む学生もいて、他の学年の教科と違い欠席率が高かった。欠席が多いとその分進みが遅い傾向にあり、卒業研究の質の向上に繋がらないので、どうやって登校させたらよいか今後の課題である。	授業評価2.9 回答率27.3% 科目GPA2.9
A231033 卒業研究 I	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 	学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともにし、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開している。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが現状である。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。	上記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していきたい。	授業評価4.90 回答率72.7% 科目GPA2.00
A231034 不動産プロデュース	土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限（特に民法、宅地建物取引業、建築基準法）を理解し、不動産管理について理解することができる。	宅地建物取引業関連の内容とあわせて、不動産プロデュースに関する学習内容を加味してスタートした新カリキュラムであったが、実際問題として不動産分野に興味関心がある学生の履修は限定的で、卒業単位不足による履修が大半を占めた。4年次開講であると同時に、入学時からの単位大盤振る舞いが影響しているものと思われる。 対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したもの、十分な対応ができなかった。	本年度の反省を踏まえて、価値に関する話題は、なるべく事例紹介を通して伝えるようにし、その他の授業内容は、宅地建物取引業関連のシロクロがつきやすいワークを取り入れるなどして、実りのある学習時間となるよう改善を試みたい。	授業評価4.68 回答率24.1% 科目GPA1.70

A231035 住宅産業論 【工教選】	住宅産業に関連した専門用語やトピックスを理解することができる。 ハウスメーカーによる住宅がどのように生み出されているのか理解することができる。 これからの住宅産業の展望と課題について自分の意見を述べるすることができる。	本学科学学生の多くが選択する進路先として住宅産業がある。そのため、本講義内容は就職先に関わりつつも、実際には就職後には学ぶことが少ない内容を取り扱う科目として、重要な位置を占められると思われる。しかしながら、4年次開講であることもあって、受講学生の大半は、卒業単位不足による履修となっている。対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したものの、十分な対応ができなかった。	新しいカリキュラムのもとではじめての開講とあって、受講者層やそうした層の学習傾向に十分な対応をとることができなかった。定期試験でも、教科書持ち込みかつ、要点を何度も確認したものの、多くの学生が不合格となった。なんとなく受講し、なんとなく試験準備もせずに試験にのぞみ、でもなんとなく合格になるという流れが、しっかり身につけてしまっているようで、これはコロナ流行にともなう遠隔授業からの誤学習とも思われる。とはいえ、そうした傾向を踏まえつつ、授業時の発問、定期試験対策等々、すこしずつ学習姿勢の改善をうながしていきたい。	授業評価4.50 回答率29.3% 科目GPA0.98
A231036 建築生産	建築生産、住宅産業などについての基礎的知識を理解することができる。 建築生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と職能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント(FM)などについて理解することができる。 講義で養った知識を建築の建築計画や建築生産に取り入れられるようにすることができる。	住宅のつくり、建築施工など先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらい的な内容を進めるかに試行錯誤した。また、Power Pointをつかった事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるをえない。こうした状況への対応が、結果的に場当たり的な授業進行になった面の否めず反省点となった。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を持続させられるよう授業資料、課題内容を再編していきたい。また、8、14週あたりにこれまでの内容の振り返りを実施するなどして知識の定着度を再確認できるようにしたい。	授業評価4.03 回答率35.5% 科目GPA1.92
L231008 情報リテラシー A1	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	対面授業になって受講生40人程度なのでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。 教室が2406になり、学生用のモニターがなく正面のプロジェクトの画面をみて操作となりみづらかったと思う。高校でPCを習得している学生としていない学生の2分化がみられた。	モニターおよびプロジェクターの改善 自宅での予習復習にPCが必要になるので何とかしたい。	授業評価4.23 回答率83.3% 科目GPA1.97
L231015 心理学A1、D1	目標として心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 教育効果について哲学や倫理学、生理学の流れを汲みながら人間関係論、コミュニケーション理論、リーダーシップ理論やモチベーション理論と関連付けられます。また、デザイン、建築などの基礎となる人間の知覚や感覚とも関連します。建築やデザインを考える上で必要な住む人、利用する人の心に寄り添うことに気づくことができれば幸いです。	心理学は覚える語句が多く留学生のうち、漢字になじみのない学生に対しては辛い授業であったと思う。できるだけPPT資料や授業資料もユニバにあげ分りやすくしたつもりであるが理解力の薄い学生には酷であったかもしれない。しかし、授業を真面目に聞いている学生たちはそれなりの点数を取っているため学習能力は高いと感じられた。今後も見やすい図表などの提示を心がけていきたい。	留学生のうち漢字文化圏以外の学生については翻訳機を使うなどの考慮をした。学習進度について行けない学生もいたが、彼らにとっては心理学やt悦学何度についてハードルが高いように感じた。しかし、高得点をとれる学生もいるため質を落とせないと考える。悩ましいところである。	授業評価4.4 回答率66.2% 科目GPA0.8
L231016 心理学A2、D2	目標として心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 教育効果について哲学や倫理学、生理学の流れを汲みながら人間関係論、コミュニケーション理論、リーダーシップ理論やモチベーション理論と関連付けられます。また、デザイン、建築などの基礎となる人間の知覚や感覚とも関連します。建築やデザインを考える上で必要な住む人、利用する人の心に寄り添うことに気づくことができれば幸いです。	A1、D1同様、心理学は覚える語句が多く留学生のうち、漢字になじみのない学生に対しては辛い授業であったと思う。できるだけPPT資料や授業資料もユニバにあげ分りやすくしたつもりであるが理解力の薄い学生には酷であったかもしれない。SD学科は特に留学生が多いため苦戦した学生が多かったように思う。しかし、授業を真面目に聞いている学生たちはそれなりの点数を取っているため学習能力は高いと感じられた。今後も見やすい図表などの提示を心がけていきたい。	毎回、真面目に出席している留学生も漢字の壁に悩まされているようである。テキストはかなりの量があるため、読みこなしていくことに困難を感じている学生とそうで無い学生に分かれた。図表等の工夫を今後も考えたい。中に書籍に関心を持つ学生も何人かいたので今後も継続して書物の紹介も続けていきたい。	授業評価4.1 回答率50% 科目GPA0.8
L231019 数学と社会 A	①数学的手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立つ数学について説明した。受講生の理解を少しでも深めるため、元の文章を暗号文にする計算と暗号文を元の文章にもどす計算の計算練習を繰り返し行った。数学と社会Aの受講生には授業に熱心に取り組む学生が多かった。このため、科目GPAが3クラスのうち最も高かった。	第10週～第13週に出題する計算練習の問題を難しいものに変更したい。	授業評価4.8 回答率81.8% 科目GPA2.00

<p>L231022 英語コミュニケーションA A1</p>	<p>①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこなない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。</p>	<p>履修者数は建築学科1年生36名であった。前期は対面授業を、一部「公欠」の学生にはリモート（オンライン）授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度から授業時間が1時間に短縮されたので、演習課題（5分以内の小テスト）は実施せず、代わりに自宅に演習課題を持ち帰って、独力で取り組んで、次週の授業開始前に提出する方法を採用した。その結果、履修学生全員が毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験をウェブ上で提出し、100%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。しかし、本来の英語の授業は音声を使って、ペアワークやグループで英語を使いながら学習を進めることがほとんどできなかったのは残念であった。</p>	<p>90%近くの学生がかなり高い評価をしてくれた。このクラスは、建築学科1年生36人の履修学生全員が最後まで出席し、全員が合格した。今後もこのようなクラスを目指したい。</p>	<p>授業評価4.32 回答率91.7% 科目GPA 2.03</p>
<p>L231031 英語コミュニケーションC A, D</p>	<p>①英語力（語彙力、文法力、聴解力、読解力）を身につけることができる。 ②情報処理能力（英語を英語のまま素早く理解する力）を身につけることができる。 ③試験対策力（時間配分や解答アプローチなど）を身につけることができる。実用的な英語の学習（語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力）を強化し、TOEIC550点以上をめざし、幅広い総合的な英語力を身につけることができる。</p>	<p>履修者数は経営学部総合経営学科2年生以上の22名を担当した。前期は対面授業（一部の学生はオンライン授業）であった。毎週、テキストの各パートの学習項目に従って、学習を進めた。授業終了間際に確認用の小テストを配布し、次週までに各自で取り組んで提出させた。また、学習が半分程度進むと演習課題（まとめの語彙テスト）を配布した。80%以上の学生が毎週の学習やドリルに取り組み、演習課題と定期レポート試験を受験し100%が学生が合格した。途中、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。学生の中には、途中で学習を諦めてしまう学生がいたが、全体として真面目に取り組んが学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。しかし、本来の英語の授業は頻りに音声教材を使って、実際に英語を使いながら学習をすることができなかったのは残念であった。</p>	<p>80%以上の学生が高い評価をしてくれた。このクラスは、履修学生の100%が合格した。また、科目GPAが2.18であったので、半数以上の学生たちの学習に対する姿勢が良かったと思われる。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるようなクラスを目指したい。</p>	<p>授業評価4.32 回答率68.2% 科目GPA2.18</p>
<p>L231036 日本語中級</p>	<p>基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生は中国出身二人(男一人、女一人)のみだったので、私の持っている中国語の知識を利用して、翻訳演習も取り入れた。そのおかげで学生の驚くようなミスを見つけ訂正することができた。学習者の母語が単一であることのメリットが活かされたと思う。</p>	<p>学生二人の授業だけあって、きめ細かい対応はできた。コロナ明けは学生数が増加し、しかも多国籍になるので、それに応じたやり方を工夫しなければならないと思う。</p>	<p>授業評価5.0 回答率50.0% 科目GPA4.0</p>
<p>L231037 日本語上級</p>	<p>日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生は中国出身二人(男二人)のみだったので、私の持っている中国語の知識を利用して、翻訳演習も取り入れた。そのおかげで学生の誤った理解や表現を訂正することができた。学習者の母語が単一であることのメリットが活かされたと思う。</p>	<p>学生二人の授業だけあって、きめ細かい対応はできた。コロナ明けは学生数が増加し、しかも多国籍になるので、それに応じたやり方を工夫しなければならないと思う。</p>	<p>授業評価5.0 回答率50.0% 科目GPA4.0</p>
<p>L231038 現代日本の文化研究</p>	<p>レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。現代日本の文化についての理解を深めることができる。以上3点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。</p>	<p>学生は3年生と4年生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・インドネシア。本学で学びに慣れている者ばかりだが、気を抜かずになるべく理解しやすい言葉を使った。ビジネス関係の日本語、日本のビジネス習慣などについて詳しく紹介し、丁寧に解説した。多国籍の強みを活かし、「日本ではこうだが、あなたの国ではどうですか」という質問を何度も何度も繰り返した。比較のおとなしい学生ばかりだったが、授業には積極的に参加してくれたと思う。</p>	<p>ビジネス社会についての知識は自分自身ブラッシュアップしていかないといけないと痛感している。教科書の内容をどれだけ補足していけるかが重要だと思うので、努力したい。</p>	<p>授業評価4.5 回答率43.5% 科目GPA2.74</p>

L231039 スポーツA A,D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えられる。 Sは23名と多かった。不可は超欠4名、試験欠席1名、評価点不足1名の3名であった。	受講ノート、課題で、高い評価を得る学生と、得られなかった学生に分かれた。また、超欠の4名は、全て6回の欠席と、残念な結果であった。 今後も達成目標が達せられる授業プログラムを心がけたい。	授業評価4.53 回答率85.7% 科目GPA2.63
L231041 デジタルデザイン表現	①コンピュータによる画像編集、映像音響編集について複数のソフトウェアを操作できる。 ②複数のソフトウェアを操作し、課題の制作に取り組むことができる。 ③リッチメディアの可能性について理解し、コンテンツ制作に取り組むことができる。	この授業は3学科対象の共通専門科目であったので、ほかの学科の授業と乖離しないよう配慮したが、つい自分の専門については力が入ってしまった。私は建築学科担当出た。デザインプロセスについて、デザインと建築では力の入れ方が違っていて興味深かった。また担当することがあれば、今度は力の配分を変更して臨みたい。	デジタルデザインソリューションについて、デザイン学科以外（建築）の学生にとっても有益で、興味を持つ内容で構成したつもりであったが、意外と動画など、コンテンツに対して面白い反応を得ることができた。 最後に学んだデザインスキルを使ったコンテンツデザインの演習を行った。自分の専門分野についてデザイン科学生では行わない発想もあって興味深かった。	授業評価4.35 回答率53.3% 科目GPA2.28
L231044 法学（日本国憲法）A,D	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。造形学部が対象であり、まずは法学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて、論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。新聞記事など身近な話題を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことをまとめるべく、コメントをしっかりと記入している学生が多く、その内容からおおむね理解してくれたようである。判例の検討が難しいと思われるため、丁寧な説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げ、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を用いながら様々な意見に触れてもらい、自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価4.483 回答率54.2% 科目GPA2.58
L231049 健康・運動の科学 A,D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の過年度生など、さぼってしまう習慣のある学生にとっては、十分に対応できなかったと感じる。 逆に、授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。 評価全体としては、S,Aの比率が少なかつたのは想定外であった。造形学部対象の科目としては異例なほど少なかつた。 合格率に関しては、評価不能（受験不可）6名に加えて、再試験対象者26名のうち、再試験提出者8名（合格2名）であったのが、全体の合格率（GPA）を下げる要因となった。	例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。 今年度は、造形学部では意外なほど、低調な結果となった。 欠席した場合でも、全員に補充課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。 興味を持って受講できるように配慮していきたい。	授業評価3.64 回答率72.1% 科目GPA1.08
L231051 キャリアデザイン1A	人生のキャリアデザインを考え、学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを目的とします。 自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。	自己PR,学チカなどの表現方法に特に力を入れて対応をしたが、できない学生に対する対応ができなかったことが反省となった。今年度からSPIにも挑戦できる仕組みを作ったが、なぜ必要かなどの説明が不足したため、前向きに学生が取り組んでいなかったことが残念だった。	就職活動に前向きに取り組めるような準備と人生におけるキャリアを考えることのバランスを考えながら進めていきたいと思う。	授業評価4.3 回答率36.4% 科目GPA2.92
L231059 中国語A A,D	中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話を行うことができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。	本講義では中国語の初学者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	履修者は56人で、1名特別配慮申請学生で、昨年での授業（遠隔授業）改善アンケートの結果より高い評価になり、回答率もアップとの結果になった。今後も受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。	授業評価4.44 回答率56% 科目GPA2.50
Q231001 教育行政	現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連するさまざまな課題を理解する。 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。	制度、教育法規の一方的な説明にならないよう、グループ討議、発表というアクティブラーニングを講義に取り入れるように工夫した。毎回の授業課題においては、授業の振り返りとして、200字程度の論述を課した。これらの工夫により、学生の思考、判断、表現力の向上が見られるようになった。	教員採用試験で課される内容が多く、学生に知識をつけさせる必要があることから、じゅうぶんなグループ討議の時間を取れなかったことから、教材の精選と構造化を図りグループ討議の時間を確保していきたい。	授業評価4.6 回答率65% 科目GPA3.2

Q231002 特別支援教育A、D、B	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として活動することの大切さを学ぶ。	教育基本法の理念を学び、古来から日本人の持つ倫理観、障がい観を身につけて欲しいと願い指導に当たった。「目隠し歩行体験」によって当たり前にできていることが急になくなったときの喪失感と普段の生活のなかで自分たちがいかに視覚に頼った生活をしているのかということを実感できたのではないかと感じている。	人数が多く、十分な話し合いの時間が持てなかったことが少し悔やまれる。次年度は同じくらしい人数であっても話し合いの持てる時間を多く取っていききたいと思う。障害者本人が語っている動画を多く視聴したのでなんとなく、高校時代にそのような子もいたなという感想もあり、自分事として捉えてくれた学生も多かった。自身が中学校時代に「交流教育」を体験した学生もおり、人としていかに接していくことが大切であるかという点を次年度、重点的に話していきたい。	授業評価4.5 回答率47.1% 科目GPA2.0
Q233001 教育実習	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価3.8 回答率22.2% 科目GPA(通年科目のため前期評価未確定)
Q233002 事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業や生徒指導などできることを目標としています。教育実習において教科指導、生徒指導、事務的業務などをスムーズにできるようなる実践力を身に付ける。	林達明先生の補助的な役割で入っている。個人的に採用試験の小論文指導や指導案の作成法、教員としての心構え等について指導した。達明先生のきめ細やかな指導に私も触発される部分を多く得た。今後の指導に生かしていきたい。	教員になってくれた学生に感謝しておきたい。ただ、社会人としての心構えが十分でないものを感じるため、この部分での指導を次年度生かしていきたい。	授業評価4.0 回答率22.28% 科目GPA2.0
Q233002 事前・事後指導	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としてのクラス業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組むことができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	授業評価にみられるように、学生が達成目標や成果がある程度得られたことから、さらに実際の学校現場で授業、担任業務に対応できるように、ICTなどを使用した実践的な学習課題の工夫や模擬授業の実施などを考えていきたい。	授業評価4.0 回答率22.2% 科目GPA(通年科目のため評価未確定)
U221001 コミュニケーション・スケッチ(A)	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるといふ学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。レポートについては、2021年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定し、学生の利便性を向上させることができました。評価についても評価項目を細かく設定し、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン(UNIPA)にそうした機能がないため、別の方策を考へざるをえない状況です。	授業評価4.23 回答率87.3% 科目GPA3.17
U231005 色彩学 A、D	達成目標 自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	デザイン技法の基本的知識の一つである色彩学は、非常に広い学問領域を含む学際的な性格をもっており、光との関係から物理学の、色覚のメカニズムとして生理学・心理学の領域から語られる。色彩と人の感情との結びつきは心理学の領域でもあるため、授業では、そうした広範な内容のなから、造形に関わる者にとって必要な基礎的知識とその活かし方を理解するテーマを中心に扱った。多様化した映像・メディア表現を含む今日のスマートデザインにも対応できるよう、デジタルカラーの概念や、色彩の文化的アプローチも紹介した。毎回、参考書の概要をわかりやすく伝えるために、パワーポイントで作成したスライド集を配信した上で対面授業にてスライドを上映しながら解説を行った。課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとり、常に、理解の定着を図るようにした。毎回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容とした。この結果、目標に対する相応の教育効果があつたと考えられる。	履修者数98名のうち54名が回答した。おおむね良好な評価を得ている。履修者数が100名近い授業のため、個々の受講生への課題を通してのフィードバックなど、きめ細やかな対応を心がけ、今後もこのような方向性でさらに発展継続していきたい。	授業評価4.36 回答率55.1% 科目GPA 2.87
U231007 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけていくことができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子がみられた。	多くの受講生それぞれと面談を進めていくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価4.47 回答率17.2% 科目GPA2.72

U231010 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現状と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。受講生は13名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。4グループ中2グループが異なる学科メンバーであった。 4グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。 他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができた。また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.63と比較し低かった。授業評価に関しては、昨年度の4.367と比較し高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが収容であり、今後も学生の興味に沿ったアドバイスなど工夫したい。	授業評価4.80 回答率38.5% 科目GPA2.23
U231011 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川こどもの家にて、木のおもちゃのアイデアスケッチ・ワークショップを実施、そのスケッチをもとに学生がグループワークにて制作を行った。制作した作品は、大学祭で子ども達に遊んでもらった。アンケート結果より、考察力、コミュニケーション能力の向上、ものづくりへの理解について、一定の効果が確認できた。グループワーク、他学科連携の有効性についてはあまり評価が高くなく、グループ内に作業をしない、やる気のない学生がいたことや、建築学科の学生への負担の集中してしまったことが原因と考えられる。	次年度に向けて、最適なグループの人数を検討し、やる気の温度差も踏まえ、グループのメンバーをどのように構成するのか、また、特定の学生に負担が集中しないような制作プロセスの工夫が課題である。	授業評価4.31 回答率61.1% 科目GPA3.11
U231012 産業クリエイション基礎 高大連携	三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。	今年度より姉妹校以外の提携校の生徒も受け入れを開始した。履修者が劇的に増加した訳ではないが、この授業を機に生徒同士が仲良くなったケースが目立ったので、思い出作りとしても機能したのではと考える。	昨年度GPAに比べれば、数値的には元に戻ってきたといえる。今年度はメンバーに恵まれたこともあって雰囲気良かった。次年度もこの楽しい雰囲気創れるかどうかが課題である。	高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。科目GPA2.73
U231013 日本の産業	日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。 □ 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。	金久保先生が□ガイダンス、日本の産業の特徴2.食品・飲料・アパレル産業3.自動車・電機・電子産業4.鉄鋼・化学・電力・石油産業5.金融・鉄道・携帯電話産業6.地域ブランド・岡崎の産業について講義を行われ今西が7.住宅産業8.インテリアデザイン産業9.エクステリアデザイン産業について講義を行った。後半の今西の内容はかなり専門的な内容の話になってしまい、学科ごとのレポート内容に差が出てしまった。また留学生への配慮ができなかったことが反省点であった。もう少し浅く広い内容が適切だったと感じた。	受講生の状況に合わせ、授業内容を検討していきたいと思う。学科ごとの差が出ないように、専門的な内容もわかりやすく話ができるように対応していきたい。	授業評価4.497 回答率48.5% 科目GPA2.46
U231015 都市と移動手段のデザイン	達成目標 1. 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 2. 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 3. 新しい移動手段をプランニングすることができる。 教育効果 建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科のすべてに関連する内容です。教養の視点だけでなく広域的な視点で捉えながら、各分野との関連性を深めます。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行った。評価は予想より高かった。この選択科目を受講した学生達は意欲的な学生が多く見られた。	コロナ禍による遠隔授業者もかなりおり、今後これが解消すれば問題点は改善される。	授業評価4.27 回答率79.0% 科目GPA3.24
U231015 都市と移動手段のデザイン	達成目標 ① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。 共通科目として、市場クリエイションの領域となる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	公欠者に対して、補習課題の方法を検討する。	授業評価4.26 回答率76% 科目GPA3.28
U231016 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。 新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。 新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。 AIやIoTを活用した新しいビジネスの提案について、プレゼンテーションができるようになります。	岡崎市の観光をテーマとした調査によって、価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめ、学生フォーラムでの発表に至った。ただし、先行事例調査については十分に考察ができていなかった。	先行事例の調査によって各自の提案との差異や独自性を明確にするプロセスを充実させる。	授業評価4.6 回答率66.7% 科目GPA2.67